



学校だより

くんとう

令和3年5月25日(火)

薫陶

かほく市立七塚小学校
校長 宗廣 進一

一人一人が生き生きと力を伸ばす

ことば



近頃は、まだ明るく夕方だと思っていて時計に目をやると、すでに夜の7時を過ぎていて…、季節の移り変わりに時間の感覚がついて行けてないと思うことがあります。

さて、先日 NHKの「ダーウィンが来た」という番組をたまたま見て驚きました。皆さんの中にもご覧になった方がいるかもしれません。

カラ類と呼ばれている、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、ヒガラ、コガラ、エナガといった日本各地に住む身近な小鳥たちが主役でした。これらのカラ類の小鳥たちは、種族は違うけれど同じ群れを作って生活していることは昔から知られていました。しかし鳴き声については、種族ごとにそれぞれの鳴き方でただ鳴いているだけだと思われていましたが、最新の研究から、人間と同じように種族ごとにそれぞれの言葉（基礎単語から文章までも）を持ち、互いの言葉を理解し合いながら協力し合って、鷹などの怖い敵から群れを守ったり、食べ物を獲得して生き抜いたりしていることがわかったのです。さらに同族同士でも言葉を使った騙し合いまでして食べ物を獲得することもあるというのです。

「ピチュピチュ」とか「ヒヨヒヨ」という、気にもとめなかった小鳥たちのかわいい鳴き声があるような深い意味を持っていたことを知り、小鳥を見直しました。同時に、私たち人間も言葉によって自分の思いや考えを他に伝えることで共感して仲間になったりまとまりが生まれたり、自分では考え及ばなかった知恵を手に入れたりすることをあらためて思い、生き抜くための言葉の大切さを再認識しました。

私たちの学校でも、言葉で伝え合い楽しく学び合えい生きる力を高めようと、授業に取り組んでいます。学校と家庭とが協力し合って、相互の生活の中に良い言語環境を作り、子ども達のコミュニケーション能力を育てていきましょう。



ご相談などはご連絡を

6月に予定していた授業参観は新型コロナウイルス感染症対策のため中止とさせていただきます。また、4月中旬に各学級担任がそれぞれのお子さんの住まいと通学路や地域の環境等の確認をするために、地域を訪問させていただきました。懇談の機会が持てない状況ですので、お子様のことや学校のことで、お困りのことやお気づきのことなどがありましたら、お気軽にご連絡をいただきたいと思います。

よかった

4月初めに、学校の教材園の片隅にトウモロコシの種をまきました。育苗用の黒いポットにふた粒ずつ、ちょっと間隔をあけて埋めました。ビニルハウスで包みあったかくして毎日水をあげていると、1週間ほどで表面の土を押しつけて芽を出し始めました。嬉しいものですね。その中に芽が出て来ないのがいくつかありました。

「どうしたんだろう・・・」心配しました。でも私にはどうしようもありません。土をほじくって確かめてみたい思いもありましたが、もし芽が頑張っ出てくる途中だったら大きなダメージを与えかねません。毎日水を上げながら見守るだけです。そのうちに、ぽつ、ぽつ、と遅れて出てきました。「よかった。」命の在り様は個々で違い、それぞれのペース、それぞれの形があることをあらためて思い知りました。